



スタンド Speed 工法 〈特許出願〉

POINT 1 Speedy

施工が簡単で格段のスピード・省力化が図れる化粧板新施工方法です。

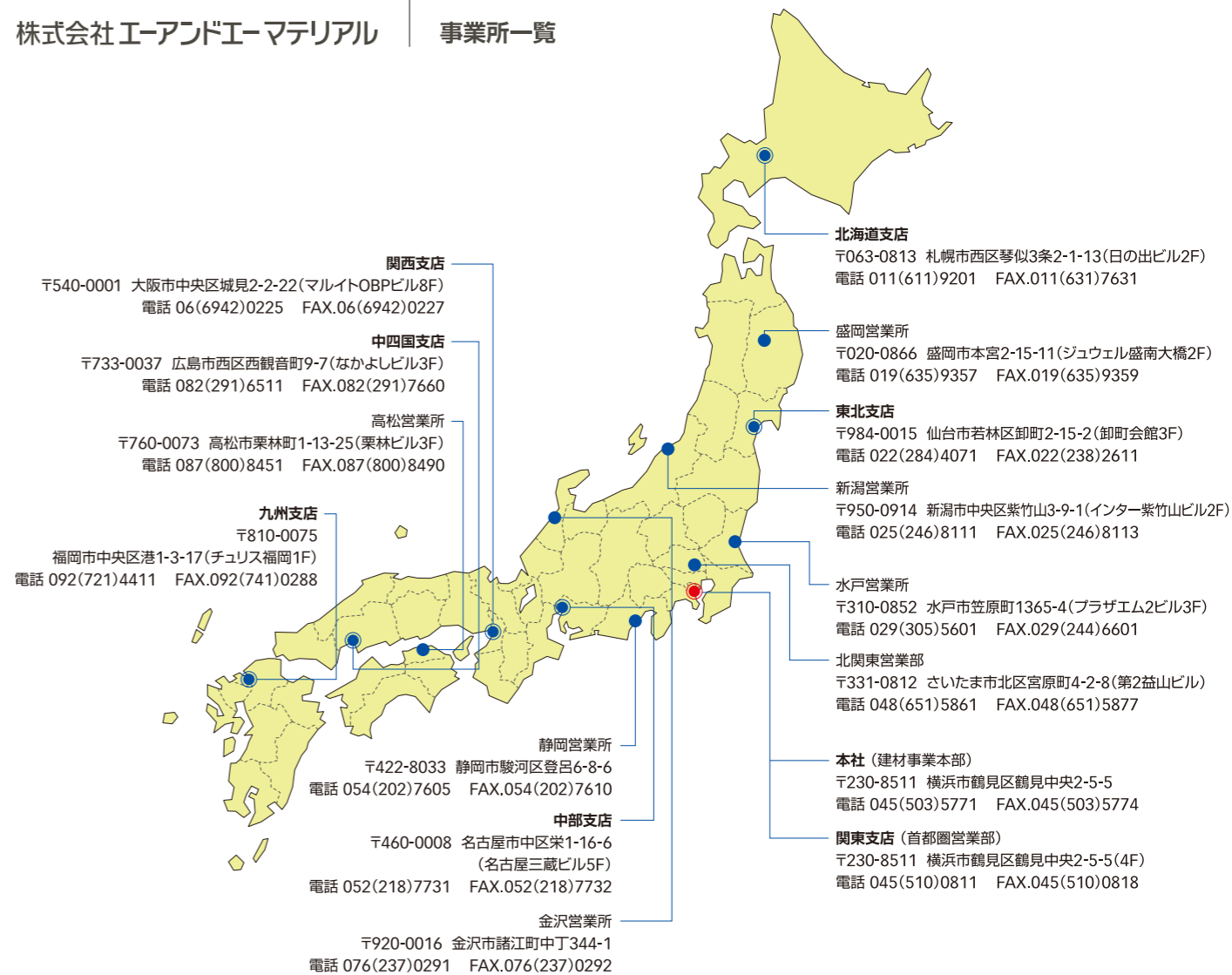
POINT 2 Protect

弾性テープが外部応力を吸収、地震力を軽減し、部材を保護します。

POINT 3 Eco

接着剤を使用しないため、使用済み接着剤カートリッジなどの廃棄物が低減できます。

↑ 接着力強化！ スタンドSpeedテープS



ホームページ

<https://www.aa-material.co.jp>

◆ スタンドSpeedテープS ⚠ 注意

- ⚠ 接着面のホコリ等を除去してからテープを貼り付けてください。
- ⚠ 感圧型の粘着剤のため、貼り付けた後は十分に圧力をかけてください。
- ⚠ テープ本来の粘着力が発揮されるまで時間がかかるので、数時間は大きな外力がかからないようご注意ください。
- ⚠ 保管は高温多湿を避け、箱に入れたまま直射日光が当たらない35℃以下の場所に置いてください。
また、テープに直接大きな荷重がかからないように保管してください。

A&AM 製各種化粧板専用 特殊接着テープ工法

スタンド Speed 工法 下張材せっこうボードに、特殊接着テープのみで張り付け **省力化工法**

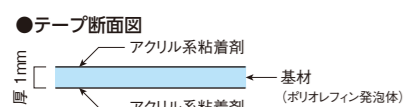
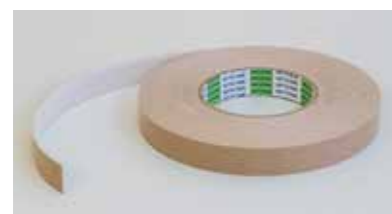
◆スタンド Speed テープ S

製品概要

製品名：スタンド Speed テープ S
 梱包：40 巻 / 箱
 (10 巻 / 内箱) × 4 箱入り

製品寸法

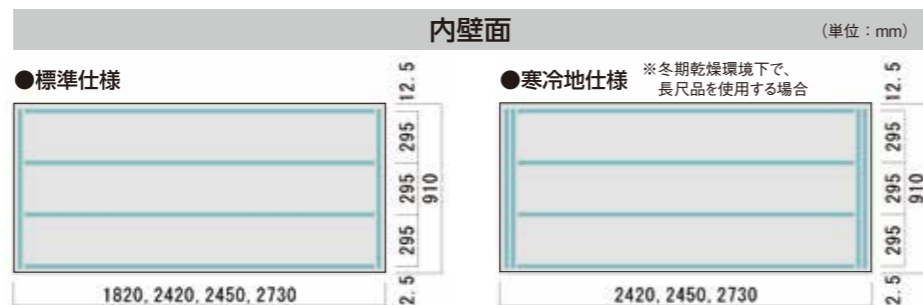
厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)
1	20	13



◆スタンド Speed テープ S の貼り付け

●化粧板裏面に下図のようにスタンド Speed テープ S を貼り、強く押し込むように密着 させてください。

※一度剥がれたテープは再使用せずに新しいテープを使用してください。
 ※テープの剥離紙は化粧板に張り付ける直前まで剥がさないでください。
 ※施工に際しては標準施工マニュアルを参照してください。



両面接着テープをピッチ 300mm 以内および幅方向上下に 1 列ずつ貼り付けます。

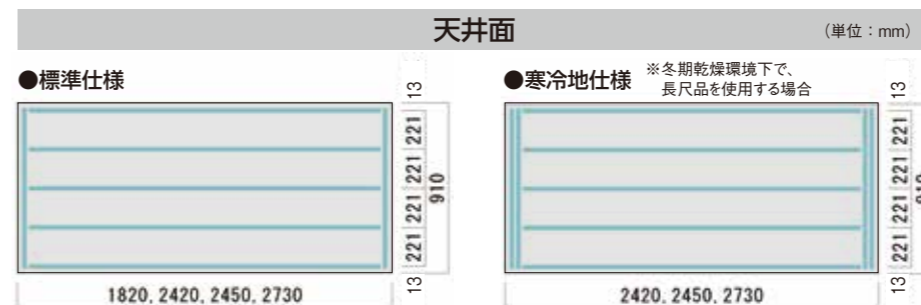
両面テープ 使用量 (m)	910×1820	910×2420 910×2450	910×2730
	9.0(5.4)	11.5(5.2)	12.6(5.1)

※() 内は m² 当たり

両面接着テープをピッチ 300mm 以内および幅方向上下に 2 列ずつ貼り付けます。

両面テープ 使用量 (m)	910×2420 910×2450	910×2730
	13.2(5.9)	14.3(5.8)

※() 内は m² 当たり



両面接着テープをピッチ 225mm 以内および幅方向上下に 1 列ずつ貼り付けます。

両面テープ 使用量 (m)	910×1820	910×2420 910×2450	910×2730
	10.8(6.5)	13.9(6.3)	15.3(6.2)

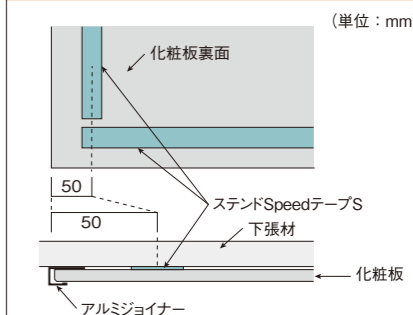
※() 内は m² 当たり

両面接着テープをピッチ 225mm 以内および幅方向上下に 2 列ずつ貼り付けます。

両面テープ 使用量 (m)	910×2420 910×2450	910×2730
	15.5(7.0)	16.9(6.8)

※() 内は m² 当たり

ジョイナー取り付け部の場合のテープ位置 (内壁・天井)



ジョイナー仕様の場合、スタンド Speed テープ S の中心を板端部より 50mm 程度離してください。
 ※寒冷地は幅方向上下 2 列ずつ貼り付けます。

◆施工後の安全性も実証済み

① 接着強度

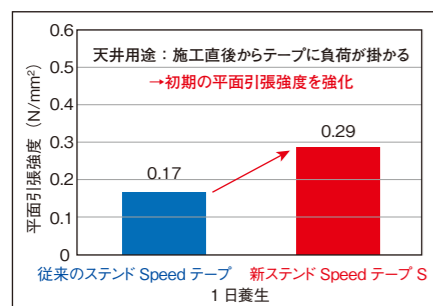
接着強度は、せっこうボード下地とした実験値です。下張り材をせっこうボードとした実験では、せっこうボードの紙が破れます。

平面引張り強度試験

	単位	スタンド Speed テープ S
実験値	N/mm ²	0.28 以上
	N/m ²	280000
接着面積率	%	内壁：10 天井：12
設計接着強度	N/m ²	内壁：2800 天井：3360

※設計接着強度は、以下の安全率で設定しています。安全率：10
 ※実験値は 23℃、50%RH、7 日間養生の値です。

〈参考〉初期接着強度実験値



※初期接着強度実験値は保証値ではありません。

② 動的変形能試験

(試験機関：弊社技術開発研究所)

■試験体

スタンド #400 間仕切
 (下張材せっこうボード厚 12.5mm)
 W:3630mm × H:2730mm

■試験方法

(一財) 建材試験センター JSTM 規格 J 2001:1998 「非耐力壁の面内せん断曲げによる動的変形能試験方法」に準拠。加振枠上部水平材に正弦波による動的変形を強制的に加え、試験体の破損程度、脱落の有無を目視確認する。

なお、層間変位角は 1/200、1/150、1/120、1/100 の他、1/75 の変位を与える。

■試験条件

振動加速度レベル：400gal
 加振時間：
 所定の変位角に達するまで………10 秒
 加振振幅を保持………40 秒
 加振振幅を減少………10 秒

■試験結果

変位角	試験体の破損状況
1/200	異常なし
1/150	異常なし
1/120	化粧板異常なし 下張材せっこうボード浮き (下張材取り付けビスのゆるみ)
1/100	化粧板異常なし 下張材せっこうボード浮き (下張材取り付けビスのゆるみ、抜け)
1/75	一部、化粧板に亀裂 ただし、脱落なし

※試験体外周取合部は、観察の対象としません。



③ 天井加振試験

■試験体

スタンド #400 天井 (6mm 目透かし目地仕様)
 (下張材せっこうボード厚 9.5mm)

■試験方法

大型水平 2 軸同時加振振動台にて、下記の加振波を与え、鉄骨柱、梁を介して天井下地材を加振し、化粧板の脱落有無及び化粧板と下張り材の接着性(浮き、部分的な剥がれ)を確認する。

■試験条件

使用加振波：兵庫県南部地震(神戸波)
 東北地方太平洋沖地震(東日本波)
 熊本地震(益城波)

■〈試験時〉加速度測定値

加振波	下部(振動台) 最大加速度 gal		上部(下張り材) 最大加速度 gal	
	X 方向	Y 方向	X 方向	Y 方向
神戸波	580	714	549	882
東日本波	903	995	981	2797
益城波	714	1064	1836	4599

■試験結果

加振波	試験体の破損状況
神戸波 X-Y 方向	化粧板の破損、脱落なし
東日本波 X-Y 方向	化粧板の破損、脱落なし
益城波 X-Y 方向	化粧板の破損、脱落なし

※試験体の天井下地材(野縁等)については評価の対象としません。

